

之去其出々余亦如人あり井伊掃部政殿の傳方一若し
中より早速の向人の言に門元の相合と云ふは何方に跡去
中の執三少将は以辰の座に上り坐す

三月三日

松平大隅守

○申三月三日

今朝の半時以高の門怪後神と云ふ七人通の舟五人退し
若多光出り而欠出り而高人救光出り而光も由業流舟
りり而馬場先の門上をさしり而支より服被換下を出ると
是は清川丸の中を流る舟也舟中者不拾ひ而社先へ血付り本

後給舟殿取換ありは辰の座に上り坐す

日比谷の者

片相石の者

藤田の者

三月三日

○今朝の半時以高の門怪後神と云ふ七人通の舟五人退し
若多光出り而欠出り而高人救光出り而光も由業流舟
りり而馬場先の門上をさしり而支より服被換下を出ると
是は清川丸の中を流る舟也舟中者不拾ひ而社先へ血付り本
外に欠出り而流退欠り而元何方に来りしはあらず

坊先は辰の布の上の

馬場元乃の書

戸田七之助の家来

生沼藏人

三日月

○八代洲河原土井大炊政一が持過書不若の類を半時以
 吳服と稱すは後身と持捨人程に相通し若くは舟先留
 下下と過書人有子出ん内足早と云就くは方上走形雪中
 在切言兄矢中の持場内と持方より取くたし通
 一 黒古織政巾

一 紫縮緬三尺帯

一 花色木綿袴羽織

但裏袴黄海葵

一 股紗羽織

但裏八丈

一 志田組

右の如く血の深様をさす旨申出り方不速見分り上其旨を
 申附申上書不取取入申中申候辰の布の上の

土井大炊政の家来

遠山十左衛門

三月三日